

# 仕事を効率的に！働き方の変化

働き方改革は「体勢」から一。脚の長いテーブルや椅子を置き、姿勢を変えて仕事ができる場所を設ける企業が増えている。普通の席から離れて気分を変えることで、仕事の効率化や新しい発想を生むきっかけにしたり、社内の交流を活発にしたりするのが狙いだ。  
(山田晃史、久下悠一郎)

## 体勢変えて気分転換

### オフィスに脚の長いテーブルや椅子



スタンディングテーブルをはじめ技術者同士の会話を生む工夫が施された空間—浜松市中区のヤマハ本社で

働く変わる

ヤマハが浜松市中区の本社構内に今年新設した研究開発拠点「イノベーションセンター」。中核となる研

究・開発棟三階の食堂の隅に、椅子がなく立ったままでも言いやすくなる。セーターの整備に携わった楽器事業本部の堤聡さん(右)が狙いを語る。

「居合わせた人同士がコーナ―を模した二百平方メートルのスペースにはソファや、バーのカウンタ―にあるような脚が長い椅子も並び、好みの姿勢でリラックスできるようにして、センターで働く二千七人の技術者らがひらめき着想を得る場にしたと考えた。



立ちながらパソコンで事務作業をする営業企画部の従業員たち—浜松市中区のエネタン本社で

### 仕事の効率化や交流促進狙う

「LP」が販売などのエネタンは七月、中区の本社営業企画部に高さを変えられる昇降テーブル七台を導入した。七十一、七十二の範囲で調節できるが、立ちながらパソコン作業ができる高さにすることが多い。営業職が社内にいる時間を減らし、社外で顧客と会う時間を増やす狙いだ。

同部の田島好社さん(右)は「車の中で座ろうと外に出る時間が増えた。書類作などが重要だ」と強調する。

堤さんは「さまざまな知見や発想を持った技術者のネットワークをつくり、新しいモノを生み出すことにつながる」と力を込める。

オフィス家具販売や内装工事を手掛ける伊勢屋(浜松市中区)によると、従業員の健康づくりや働き方改革の観点から、座りっぱなしで仕事をする習慣を見直す動きが広がり、浜松市内でも昇降テーブルを導入する企業が増えつつあるという。営業担当者は「悪い姿勢で座り続けると、腰痛や肩こりにつながる恐れがある。座りっぱなしを防ぐことが重要だ」と強調する。



エネタンで導入している昇降テーブル。社員が社内にいる時間を減らし、お客様との対話時間を増やす、新規営業先へ訪問する。会議や打ち合わせを立てする事で、時間を短縮。お客様第一を考えながら働き方改革に取り組んでいます。

平成30年(2018年)9月22日(土)

中日新聞掲載